

子どもスキースクールに対する参加者の期待と満足

浦田 憲二

Children's Expectation and Satisfaction to The Children Ski School

Kenji URATA

The purpose of this study was to investigate children's expectation and satisfaction to the children ski school. The subjects were 62 male and female 4th to 9th graders who participated in the 4-day children ski school.

To measure children's expectation and satisfaction to ski school, the questionnaire including 42 items developed by Imano was administered before and after the ski school.

The following results were obtained.

- 1) Children expected that they would enjoy playing in snow and skiing and had experiences which they cannot do usually.
- 2) 7th to 9th graders expected that they would enjoy the life with friends and leaders.
- 3) Children were satisfied that they enjoyed playing in snow and skiing, experiences which they cannot do usually and the life with friends and leaders.

キーワード：子どもスキースクール 小学校高学年 中学生 期待 満足

近年スキー人口の増加と共に、大衆スポーツとしてスキーは様々な形態で実施されるようになってきた。特に生涯スポーツという観点から、各地域のスキー連盟や社会教育機関が盛んにスキー教室を開催するようになってきており、また、私的団体の主催するスキー教室も数多く行われるようになってきた。このようなスキー教室の対象者も、成人を対象にしたものから子どもたちを対象にしたものまで、幅広い層にわたって行われるようになってきた。特に、子どもたちを取り巻くスキー環境は大きく変化してきたように思われる。中学校や高等学校においては、従来の名所、旧跡を訪ねる修学旅行の代替として、スキー修学旅行が実施されるようになってきており、冬休み、春休みともなると、各種の団体や教育機関が主催する、子どもたちを対象としたスキー教室が数多く行われるようになってきた。

野外活動の一つであるスキーは、単にスポーツとしての楽しみばかりでなく、教育的活動としての大きな効果が期待できるものの一つとして考えられる。野沢⁵⁾は自然体験、団体行動、技能習得、体力向上、安全教育などの観点からスキー教室の目的を、「スキー技能の習得と冬山の理解をはかると共に、団体生活を通して規律ある生活態度を養成し、体力の向上と社会的態度の育成をはかるもの」と述べている。しかし、高村⁶⁾が「集団の中で個人の優劣の場を提供し、あたかもそれが目的のようなスキー教室が多く見られる」と指摘するように、技術指導に重点がおかれ、技能習得以外の教育的効果を見失っているようなスキー教室も少なくない。

特に子どもを対象にしたスキー教室においては、スキーについての総合的なイメージを参加したスキー教室の中に持ってしまうということが考えら

れる。高村⁶⁾は「子どもの場合はスキー技術だけでなく、スキーとはこんなものかという一つの概念として受け止めて育てゆくために、特別な配慮をしていかなければならない」と述べているが、子どもたちがスキーという活動を、単にスキーの技術の面だけにとらえるのではなく、自然のなかでの様々な体験をする場として考えているとすれば、子どもたちがスキー教室というプログラムに対してどのような希望や期待を持ち、どのような点に満足感を得ているのかを知ることは、子どもを対象にしたスキー教室を企画、運営していくに当たって十分に理解していかなければならないことと考えられる。

スキー教室参加者の意識調査としては、大学生を対象にして、参加目的、期待度、満足感などの観点からいくつかの報告がなされている^{1) 4)}。子どもを対象にしたスキー教室に対しての、期待に関する研究としては次の様なものが行われている。平野ら²⁾は、スキー教室に子どもを参加させた両親の期待について調査をし、両親は、家庭や学校では得られない活動経験や、雪やスキーに対する好奇心や興味について、強い期待を抱いているということを明らかにしている。また、今野ら³⁾は小学校高学年を対象に、スキー教室参加者がどのような期待をもっているかを調査し、スキー技術の進歩、向上に関することよりも、自分自身がスキーを楽しみ、満足することに強い期待をもっていることを明らかにしている。

本研究では小学校高学年及び中学生が、宿泊を伴うスキー教室に参加するにあたり、どのようなことに期待感をもち、どのような満足感を得ているのかを明らかにすることにより、児童、生徒を対象にしたスキー教室を企画、運営する際の資料とすることを目的としている。

研究 方法

調査対象

平成4年3月に、小学生と中学生を対象に行われた3泊4日の子どもスキースクール（以後スキースクールとする）に参加した小学校4年生から中学校3年生までの児童、生徒61名を調査対象とした。調査対象者の内訳は表1に示した。

表1 子どもスキースクール参加者の内訳

学年	男子	女子	合計
小学校4年	4	5	9
5年	7	2	9
6年	7	9	16
合計	18	16	34
中学校1年	4	6	10
2年	1	4	5
3年	4	8	12
合計	9	18	27

スキースクールの概要

小学生を対象にしたスキースクールは、長野県の梅池高原スキー場で、中学生を対象にしたスキースクールは長野県熊の湯スキー場で行われた。どちらも、教育事業を行っている企業が、一般に募集を行い実施しているもので、3月30日より4月2日の3泊4日の日程で行われた。プログラム及び運営方法については二つのスキースクールとも同じ形態を取って行っている。事前のミーティングを二つのスキースクールのスタッフが合同で行い、その運営方針、スキースクールの目的などについて打合せを行っている。

宿舎における生活班としては、7名から9名に対して1名のスタッフが生活の指導にあたり、学年別の横割りの班編成とした。宿舎でのプログラムとしては、生活班ごとにナイトハイクや班別ミーティングを行い、3日目の夜には全体でさよならパーティなどが行われた。

スキー講習の班については技術レベルによって班編成を行い、6名から10名に対して1名のスタッフがスキー指導にあたった。スキー講習は午前、午後ともに2時間から2時間30分行い、リフトやゴンドラなどを活用して、滑走距離をできるだけ長く取ることを心がけた指導を行った。3日目の午後にはポールを使ったデュアル形式のタイムレースなども実施した。

検査及び手続き

本研究で使用した調査表は、今野ら³⁾が作成した42項目からなる調査表を用いた。各項目について、「非常に期待できる（非常に満足できた）」、「かなり期待できる（かなり満足できた）」、「すこ

し期待できる（すこし満足できた）」、「期待できない（満足できなかった）」までの4段階評定尺度を用いて、それぞれ4点、3点、2点、1点の点数をつけて集計を行った。質問項目については表2に示した。

表2 スキースクールに対する期待及び満足についての調査項目

1. 友達といっしょに生活すること	22. スキーが十分に楽しめること
2. 新しい友達ができること	23. 自由時間があること
3. 自分のことは何でも自分ですること	24. 知らない人と生活したりスキーをすること
4. スキーがじょうずになること	25. 新しいスキーの滑り方を覚えること
5. 美しい雪景色を見ること	26. 高いところから滑り降りること
6. がまんづよくなること	27. コーチと親しくなること
7. グループのリーダーになること	28. 友達関係が深まること
8. スキーでスピードやスリルを味わうこと	29. 良い思い出をつくること
9. スキーをして体力がつくこと	30. 雪がたくさんあること
10. 家族から離れて生活すること	31. 宿舎の部屋で遊ぶこと
11. 雪を使って遊ぶこと	32. 夜おそくまで起きていること
12. スキーのレースをすること	33. みんなでパーティーをすること
13. 勉強やいやなことを忘れること	34. 雪のあるところで生活し、雪に親しむこと
14. 新しい体験や生活をする事	35. スキー班や生活班の友達と一緒にすること
15. 友達と仲良く遊ぶこと	36. スキーの言葉や知識が増えること
16. おみやげを買うこと	37. 自由にスキーをする時間のあること
17. 友達と協力してすごすこと	38. 規則正しい集団生活をする事
18. コーチにスキーを習うこと	39. 天候に恵まれること
19. リフトにたくさん乗ること	40. 宿舎がきれいで、食事がおいしいこと
20. コーチといっしょに遊ぶこと	41. スキーのテストがあること
21. スキーが好きになること	42. 病気やけがをしないで健康に過ごすこと

スキースクールに対する期待感の調査はそれぞれのスキー場へ向かう電車の中で実施し、スキースクールに対する満足感の調査は帰りの電車の中で行った。どちらも、スタッフが項目を読み上げながら記入をしてもらった。

結果と考察

スキースクールに対する期待

スキースクールに参加した子どもたちが、どのような点に期待しているかということを見るために、得点の高かった上位10位までの項目について表3及び表4に示した。

小学校高学年において期待する項目で高かったものは、「21. スキーが好きになること」「22. スキーが十分に楽しめること」「37. 自由にスキーをする時間のあること」「11. 雪を使って遊ぶこと」「34. 雪のあるところで生活し、雪に親しむこと」といったスキーや雪に対する興味や関心に関する項目が多く見られた。また、「10. 家族から離れて生活すること」「29. 良い思い出を作ること」「13. 勉強や嫌なことを忘れること」「23. 自由時間があること」といった非日常的生活体験に関する項目も多く見られた。友達との生活に関する項目としては「33. みんなでパーティーをするこ

表3 小学校高学年がスキースクールに
期待する項目

<上位群>		(N=34)	
順位	項目	M	SD
①	21. スキーが好きになること	3.73	0.57
②	33. みんなでパーティーをすること	3.65	0.54
③	22. スキーが十分に楽しめること	3.62	0.59
④	10. 家族から離れて生活すること	3.53	0.65
④	29. 良い思い出を作ること	3.53	0.71
⑥	37. 自由にスキーをする時間のあること	3.52	0.70
⑦	11. 雪を使って遊ぶこと	3.47	0.65
⑧	13. 勉強やいやなことを忘れること	3.44	0.95
⑧	23. 自由時間があること	3.44	0.65
⑩	34. 雪のあるところで生活し、雪に親しむこと	3.41	0.65

表4 中学生がスキースクールに期待する項目

<上位群>		(N=27)	
順位	項目	M	SD
①	29. 良い思い出を作ること	3.48	0.57
②	10. 家族から離れて生活すること	3.44	0.63
②	13. 勉強やいやなことを忘れること	3.44	0.92
②	15. 友達と仲良く遊ぶこと	3.44	0.63
②	22. スキーが十分に楽しめること	3.44	0.63
⑥	21. スキーが好きになること	3.41	0.68
⑥	27. コーチと親しくなること	3.41	0.49
⑥	28. 友達関係が深まること	3.41	0.62
⑨	42. 病気やけがをしないで健康に過ごすこと	3.37	0.55
⑩	11. 雪を使って遊ぶこと	3.33	0.86
⑩	23. 自由時間があること	3.33	0.77
⑩	24. 知らない人と生活をしたりスキーをすること	3.33	0.54

と」の1項目が見られた。

中学生において期待する項目で上位を占めたものとしては「22. スキーが十分に楽しめること」「21. スキーが好きになること」「11. 雪を使って遊ぶこと」といったスキーや雪に対する興味や関心に関する項目や、「29. 良い思い出を作ること」「10. 家族から離れて生活すること」「13. 勉強や嫌なことを忘れること」「23. 自由時間があること」といった非日常的生活体験に関する項目が多く見られた。さらに、「15. 友達と仲良く遊ぶこと」「27. コーチと親しくなること」「28. 友達関係が深まること」「24. 知らない人と生活をしたり、スキーをすること」といった友達との生活や、新しい人間関係に対する興味や関心に関する項目も多く見られた。

今野ら³⁾は小学校高学年を対象にして行った同様の調査の中で、児童は自分自身が楽しみ満足するという項目に対して高い期待を抱いているという報告をしている。また、林間学校に対する児童の期待について調査した山本⁸⁾は、身体運動を伴う冒険的な活動に高い期待を示したと述べているが、本研究においても、児童、生徒がこの種の活動に参加する際、具体的な活動（スキーを楽しむ。雪の中で遊ぶ。）を通して得られる満足感に高い期待を持つことが分かった。また、宿泊を伴う子どもたちだけの集団生活に対しても、日常生活ではできない体験として高い期待感を抱いていることが分かった。

さらに、中学生においては、自分自身で楽しむということだけでなく、友達との生活や新しい友達との出会い、コーチとの触れ合いなどの点においても高い期待がみられたが、これは、中学生としての社会性の発達に応じた期待感の拡がりが見られたものと考えられる。

期待感の低かった項目について表にしたものを、表5、表6に示した。小学校高学年及び中学生ともに、「41. スキーのテストがあること」「12. スキーのレースがあること」「4. スキーが上手になること」「9. スキーをして体力がつくこと」といったスキーに関連した知識や技術、体力に関する項目や、「7. グループのリーダーになること」「6. がまんづよくなること」「3. 自分のことは何でも自分ですること」「38. 規則正しい集団生活をする」といった自由が制限されるような集団生活に関する項目については期待感が少ないという傾向がみられた。高山⁷⁾は、子どもたちがスポーツクラブの嫌な点として、技術の伸び悩みや困難さだけでなく、練習の強制や生活の時間的制約など、自由の束縛に不満を訴える傾向があると述べているが、本研究においてもスキーに関する知識や技術の修得や、規律ある集団生活やがまんをすること、リーダーになることといった自己を抑制するような項目に対して期待感が低いことが分かった。

表5 小学校高学年がスキースクールに

期待する項目

<下位群>

(N=34)

順位	項目	M	SD
①	7. グループでリーダーになること	1.88	0.91
②	3. 自分のことは何でも自分ですること	2.65	0.84
③	40. 宿舎がきれいで食事がおいしいこと	2.74	1.01
④	12. スキーのレースをすること	2.79	1.16
⑤	4. スキーが上手になること	2.82	0.89
⑥	36. スキーの言葉や知識が増えること	2.85	0.84
⑦	9. スキーをして体力がつくこと	2.88	0.93
⑧	38. 規則正しい集団生活をする事	2.91	0.78
⑨	41. スキーのテストがあること	2.91	0.81
⑩	6. がまんづよくなること	2.94	0.87

表6 中学生がスキースクールに期待する項目

<下位群>

(N=27)

順位	項目	M	SD
①	7. グループのリーダーになること	1.85	0.75
②	41. スキーのテストがあること	2.48	1.03
③	12. スキーのレースをすること	2.63	0.95
④	9. スキーをして体力がつくこと	2.74	0.89
⑤	6. がまんづよくなること	2.78	0.96
⑥	38. 規則正しい集団生活をする事	2.81	0.77
⑦	3. 自分のことは何でも自分ですること	2.81	0.72
⑧	8. スキーでスピードやスリルを味わうこと	2.93	0.90
⑨	4. スキーが上手になること	3.00	0.77
⑩	39. 天候に恵まれること	3.04	0.84

スキースクールに対する満足

スキースクールに対して満足感を得た項目のうち得点の高かった上位10位までの項目について表7、表8に示した。

小学校高学年において満足感の高かった項目としては、「21. スキーが好きになること」「22. スキーが十分に楽しめること」「34. 雪のあるところで生活し、雪に親しむこと」といったスキーや雪に対する興味や関心に関する項目、「29. 良い思い出を作ること」「10. 家族から離れて生活すること」といった非日常的生活体験に関する項目について高い満足感がみられた。これらは期待感の高かった項目と一致する。

さらに、「2. 新しい友達ができること」「15. 友達と仲良く遊ぶこと」「27. コーチと親しくなること」といった、友達との生活や新しい人間関係に対する興味や関心に関する項目においても高

い満足感がみられた。これらの項目は、スキースクールに期待する項目としては上位にはみられなかった項目である。本研究が調査対象としたスキースクールでは、その目標の一つに「親友を作ろう」ということを掲げ、その目標にそって小集団の自主的な生活が送れるよう指導体制を取っている。このような、スキースクールの生活全般にわたるスタッフの指導と、4日間のスキーを通じての共同生活によるものと考えられる。また、「4. スキーが上手になること」「18. コーチにスキーを習うこと」といったスキー技術の修得についても高い満足感を示している。

中学生においては、「1. 友達と一緒に生活すること」「15. 友達と仲良く遊ぶこと」「28. 友達関係が深まること」「2. 新しい友達ができること」といった友達との生活に関する項目に対して高い満足感を示した。また、「13. 勉強や嫌なことを忘れること」「29. 良い思い出を作ること」「14. 新しい体験や生活をする事」「29. 良い思い出を作ること」といった非日常的生活体験に関する項目や、「22. スキーが十分に楽しめること」「21. スキーが好きになること」といったスキーや雪に関する項目についても高い満足感がみられた。期待の高かった項目に対して、相応の満足感が得られたものと考えられる。

表7 小学校高学年がスキースクールに

満足した項目 (N=34)

順位	項目	M	SD
①	21. スキーが好きになること	3.91	0.28
②	2. 新しい友達ができること	3.85	0.43
③	22. スキーが十分に楽しめること	3.85	0.36
④	4. スキーが上手になること	3.74	0.50
⑤	29. 良い思い出を作ること	3.74	0.50
⑥	10. 家族から離れて生活すること	3.71	0.71
⑦	15. 友達と仲良く遊ぶこと	3.68	0.63
⑧	18. コーチにスキーを習うこと	3.65	0.54
⑨	27. コーチと親しくなること	3.65	0.54
⑩	34. 雪のあるところで生活し、雪に親しむこと	3.65	0.64

表8 中学生がスキースクールで
満足した項目 (N=27)

順位	項目	M	SD
①	13.勉強やいやなことを忘れること	3.85	0.59
①	22.スキーが十分に楽しめること	3.85	0.36
①	29.良い思い出を作ること	3.85	0.36
④	18.コーチにスキーを習うこと	3.81	0.38
④	21.スキーが好きになること	3.81	0.39
⑥	1.友達と一緒に生活すること	3.74	0.44
⑥	15.友達と仲良く遊ぶこと	3.74	0.52
⑥	28.友達関係が深まること	3.74	0.44
⑨	2.新しい友達ができること	3.70	0.46
⑨	14.新しい体験や生活をする事	3.70	0.53
⑨	30.雪がたくさんあること	3.70	0.46
⑨	42.病気やけがをしないで健康に過ごすこと	3.70	0.60

結 論

スキースクールに参加した小学校高学年および中学生61名を対象に、スキースクールに対する期待と満足を調査した結果、スキースクールに対する期待としては、

(1)スキーや雪に対する興味や関心に関する項目や非日常的生活体験に関する項目について高い期待感がみられた。

(2)中学生においては特に友達との生活や新しい人間関係に対する興味や関心に関する項目についても高い期待感がみられた。

(3)スキーに関する知識や技術の修得、自由を制限されるような集団生活に対しては期待が低い傾向がみられた。

スキースクールに対して満足した項目としては、

(4)スキーや雪に対する興味や関心に関する項目、非日常的生活体験に関する項目、友達との生活や新しい人間関係に関する項目などに高い満足感がみられた。

以上の結果より、子どもスキースクールに参加

した児童、生徒はスキー技術や知識の修得、あるいは規律ある集団生活をする事よりも、スキーや雪に対する興味や関心、普段の生活とは異なる新しい生活体験ができることに対して高い期待感を抱いていることが分かった。さらに中学生においては、友達との共同生活ができることにも高い期待感をもっていることが分かった。また、本研究が対象にしたスキースクールにおいては、期待の高かった事柄に対して、相応の満足感を得ていることが分かった。

引用文献

- 1) 橋本 年一, 鈴木 正敏 九州工業大学のスキー教室に関する一考察
九州工業大学研究報告 30, pp125~138 1983
- 2) 平野 吉直, 飯田 稔 学校スキーに対する両親の期待 —参加児童に及ぼす両親の期待—
筑波大学体育科学系運動学類運動学研究 1, pp1~8 1985
- 3) 今野 廣隆, 山本 悟 スキー教室に対する参加児童の期待
高千穂論叢 昭和60年度(二), pp77~93 1985
- 4) 松下 唯夫, 野崎 康明 スキー教室参加者の意識調査
日本体育学会第30回大会号 p156 1979
- 5) 野沢 巖, スキーの指導 日本野外教育研究会編 杏林書院 東京 1991 p44
- 6) 高村 雄治, 子供のためのスキー教本
スキージャーナル 東京 1979 p87
- 7) 高山 英男, 子どもにとってけいこ塾、スポーツクラブとは何か
児童心理 39(9), pp121~126 1985
- 8) 山本 悟 林間学校に対する児童の期待
教育研究 42(1) pp70~73 1987